The background of the slide is a soft-focus photograph of a calm lake reflecting the surrounding green mountains and dense forests. The scene is shrouded in a light mist, creating a serene and peaceful atmosphere. The colors are muted greens and blues, with a bright light source in the center background creating a subtle glow.

平成29年度

全国及び奈良県学力・学習状況調査の調査結果  
の活用による指導改善に向けた説明会

平成29年9月25日(月)  
県立教育研究所

# 本日の内容

## 1. 今後の全国学力・学習状況調査について

- (1) 結果提供の時期、調査実施日の変更について
- (2) 英語予備調査について
- (3) 小学校調査と中学校調査の調査結果の連携について

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

- (1) 全国学力・学習状況調査の目的と内容
- (2) 学習指導の改善に関する状況
- (3) 児童生徒の自己肯定感に関する状況
- (4) 中学校における部活動の状況
- (5) その他の特徴について

## 3. 奈良県教育振興大綱の重要業績評価指標の 目標の達成に向けて

## 4. 教育委員会や先生方をお願いしたいこと

## (1) 結果提供の時期、調査実施日の変更について

### 結果提供・公表日の早期化

<現行(平成29年度)>

提供日  
教育委員会: **8月18日(金)**  
学校: **8月21日(月)**  
公表日: **8月28日(月)**



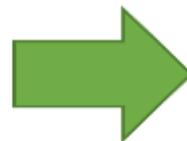
<平成30年度以降>

**提供日: 7月中下旬**  
**公表日: 7月末頃**  
**(予定)**

### 調査実施日の原則の変更

<現行>

原則として、4月20日に  
最も近い火曜日  
(平成29年度: 4月18日  
平成30年度: 4月17日)



<平成31年度以降>

**原則として、**  
**火~木曜日のうち**  
**4月18日に最も近い日**

# 1. 今後の全国学力・学習状況調査について

## (1) 結果提供の時期、調査実施日の変更について

### 調査実施日の原則の変更

原則として、火～木曜日のうち、  
4月18日に最も近い日

4月	15	16	17	18	19	20	21
パターン①	土	日	月	火	水	木	金
パターン②	日	月	火	水	木	金	土
パターン③	月	火	水	木	金	土	日
パターン④	火	水	木	金	土	日	月
パターン⑤	水	木	金	土	日	月	火
パターン⑥	木	金	土	日	月	火	水
パターン⑦	金	土	日	月	火	水	木



平成31年度はパターン③→4月18日(木)実施

## (2) 英語予備調査について（平成30年度調査）

### ① 趣旨・目的

平成31年度全国学力・学習状況調査から、3年に一度程度、中学生の英語力を測定する調査を実施予定である。この調査の実施方法等について事前に検証するため。

### ② 調査対象

- 各都道府県から推薦された3～4校程度。
- 推薦に当たっては、学校規模等を考慮。

### ③ 調査日時

平成30年5月前後で、調査対象校が対応できる日。

### (3) 小学校調査と中学校調査の調査結果の連携について

- 県から平成28年12月21日付け事務連絡において、各市町村教育委員会に通知したところ。
- 県から平成29年8月25日付け教学第671号で改めて連絡。
  - ・ 国が分析結果を提供する際にも、個人情報保護の観点等から引き続き慎重に整理・検討すべき事項がある。
  - ・ 文部科学省と学校設置者等との適切な役割分担等も踏まえることが必要である。



「改めて御連絡をさせていただく予定であるので、お待ちいただきたい。」

### (1) 全国学力・学習状況調査の目的と内容

#### 〈全国学力・学習状況調査の目的〉

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



「何ができて、何ができないのか」を把握し、「できなかったことが、できるようになる」という子どもの**学習意欲**や**学力向上**につながるものでなければならない。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (1) 全国学力・学習状況調査の目的と内容

#### 〈全国学力・学習状況調査の内容〉

国語A、算数・数学A



主として  
「知識」に関する問題

- ◆身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◆実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

国語B、算数・数学B



主として  
「活用」に関する問題

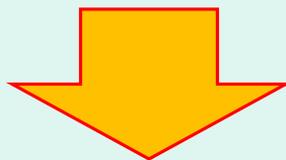
- ◆知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◆様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

問題の趣旨を把握するために、先生方が実際に調査問題を解くなどの校内研修が行われている。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (1) 全国学力・学習状況調査の目的と内容

B問題では、他者と協働した学習活動の中で、他者の意見などから自分に必要な情報を読み取り、それらを使って自分なりの答えを導くような問題が出題。



全国学力・学習状況調査は、10～20年後、目まぐるしく変化し、見通しのもてない社会の中で生きていくことになる現在の児童生徒に求められる学力を測っている。

だからこそ、児童生徒にこのような力が身に付くような授業改善をさらに進める必要がある。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）

（上段：平均正答数 下段：平均正答率(%)）

	国語 A				国語 B			
	平成29年度		平成28年度		平成29年度		平成28年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	11.2/15 74.8	11.0/15 74	10.9/15 72.9	10.8/15 71.7	5.2/9 57.5	5.1/9 56	5.8/10 57.8	5.7/10 56.9
中学校	24.8/32 77.4	24.8/32 78	25.0/33 75.6	25.0/33 75.9	6.5/9 72.2	6.4/9 72	6.0/9 66.5	5.9/9 65.5

	算数・数学 A				算数・数学 B			
	平成29年度		平成28年度		平成29年度		平成28年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	11.8/15 78.6	11.7/15 78	12.4/16 77.6	12.3/16 77.1	5.1/11 45.9	5.0/11 45	6.1/13 47.2	6.0/13 46.4
中学校	23.3/36 64.6	23.4/36 65	22.4/36 62.2	22.9/36 63.6	7.2/15 48.1	7.2/15 48	6.6/15 44.1	6.6/15 44.2

※国からの各都道府県別の平均正答率の提供が整数値となったため、平成29年度の奈良県の平均正答率は整数値で示しています。

- 小学校において、国語A、B、算数A、Bの全ての調査において、全国平均正答数を0.1から0.2ポイント下回った。
- 中学校においては、国語Bで0.1ポイント下回った以外は、全国平均正答数を同ポイント又は0.1ポイント上回った。

## 平成29年度奈良県学力・学習状況調査の結果（教科）

（平均正答率（%））

小学校				中学校			
国語		算数		国語		数学	
教科全体	69.4	教科全体	77.5	教科全体	75.3	教科全体	71.3
基礎	71.8	基礎	80.6	基礎	75.7	基礎	73.9
活用	59.1	活用	64.8	活用	73.8	活用	61.1

### 国語

- 書く力に課題が見られる。（小学校）
- 書く力について、自分の立場を明確にして書くことはできているが、自分の体験を踏まえて自分がとった立場の理由を書くことに課題が見られる。（中学校）

### 算数・数学

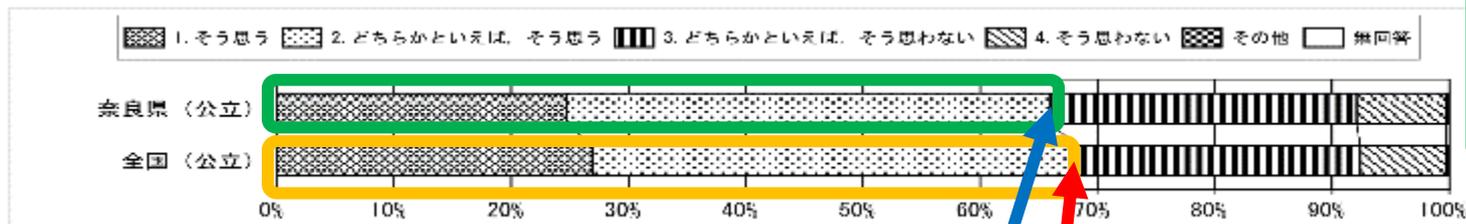
- 地図やグラフなどから必要な情報を読み取ることや、数学的表現を用いて説明することに課題が見られる。（小学校）
- 数学的表現を用いて説明することや、時速、割合の理解に課題が見られる。（中学校）

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (2) 学習指導の改善に関する状況

小学校

質問番号	質問事項									
(68)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
奈良県(公立)	24.7	41.3	26.1	7.6					0.1	0.2
全国(公立)	26.9	41.3	24.2	7.3					0.1	0.2

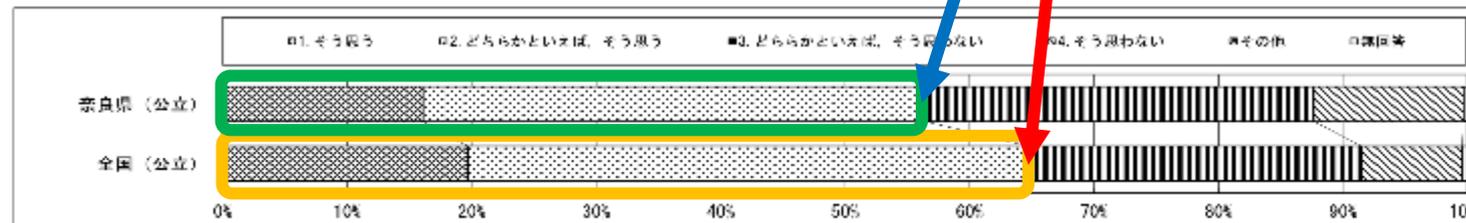


奈良県  
66.0%

全国  
68.2%

中学校

質問番号	質問事項										
(70)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
奈良県(公立)	15.1	40.1	31.2	12.9						0.0	0.3
全国(公立)	19.7	45.1	26.7	8.1						0.0	0.4



奈良県  
56.5%

全国  
64.8%

言語活動を取り入れた授業を増やすことが求められている。  
また、本県では、中学校で肯定的な回答の減少が顕著である。

### (2) 学習指導の改善に関する状況

# 全国学力・学習状況調査の結果

## → 新学習指導要領の理念

○ 教育方法に関するこれまでの議論においても、子供たちが主体的に学ぶことや、学級やグループの中で協働的に学ぶことの重要性は指摘されてきており、多くの実践も積み重ねられてきた。特に小・中学校では、全国学力・学習状況調査において、主として「活用」に関する問題（いわゆるB問題）が出題され、関係者の意識改革や授業改善に大きな影響を与えたことなどもあり、多くの関係者による実践が重ねられてきている。「アクティブ・ラーニング」を重視する流れは、こうした優れた実践を踏まえた成果である。

○ 一方で、こうした工夫や改善の意義について十分に理解されないと、例えば、学習活動を子供の自主性のみに委ね、学習成果につながらない「活動あって学びなし」と批判される授業に陥ったり、特定の教育方法にこだわるあまり、指導の型をなぞるだけで意味のある学びにつながらない授業になってしまったりという恐れも指摘されている。

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）

# 主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

### 【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



学びを人生や社会に  
生かそうとする  
**学びに向かう力・  
人間性等の涵養**

生きて働く  
**知識・技能の  
習得**

未知の状況にも  
対応できる  
**思考力・判断力・表現力  
等の育成**

主体的な学び  
対話的な学び

深い学び



## 【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

### 【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



## 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

### 【例】

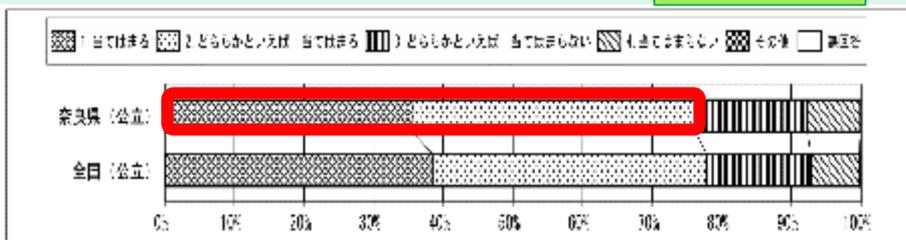
- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (3) 児童生徒の自己肯定感に関する状況

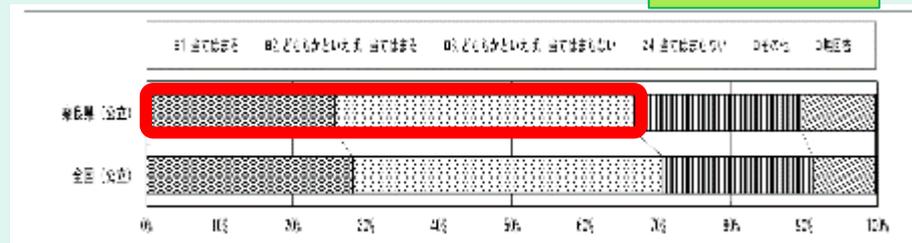
小学校

奈良県  
76.2%

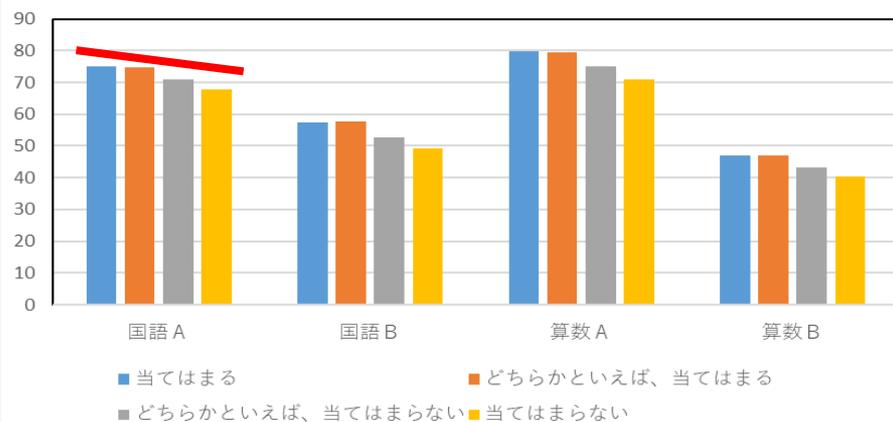


中学校

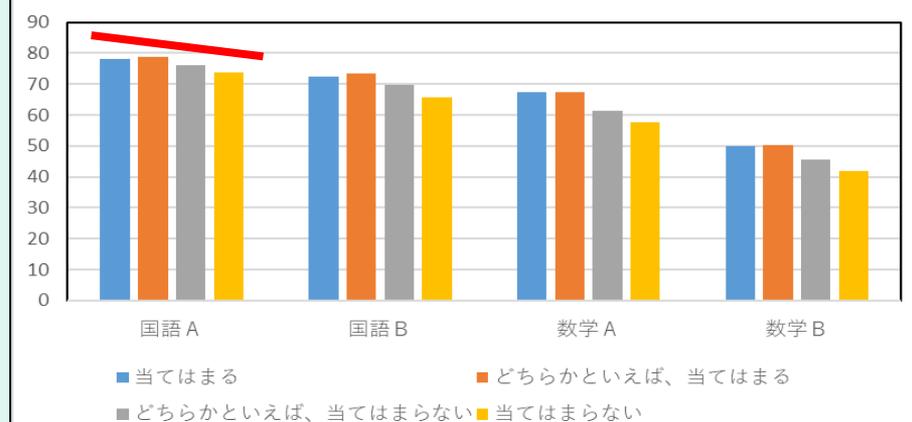
奈良県  
66.7%



小学校



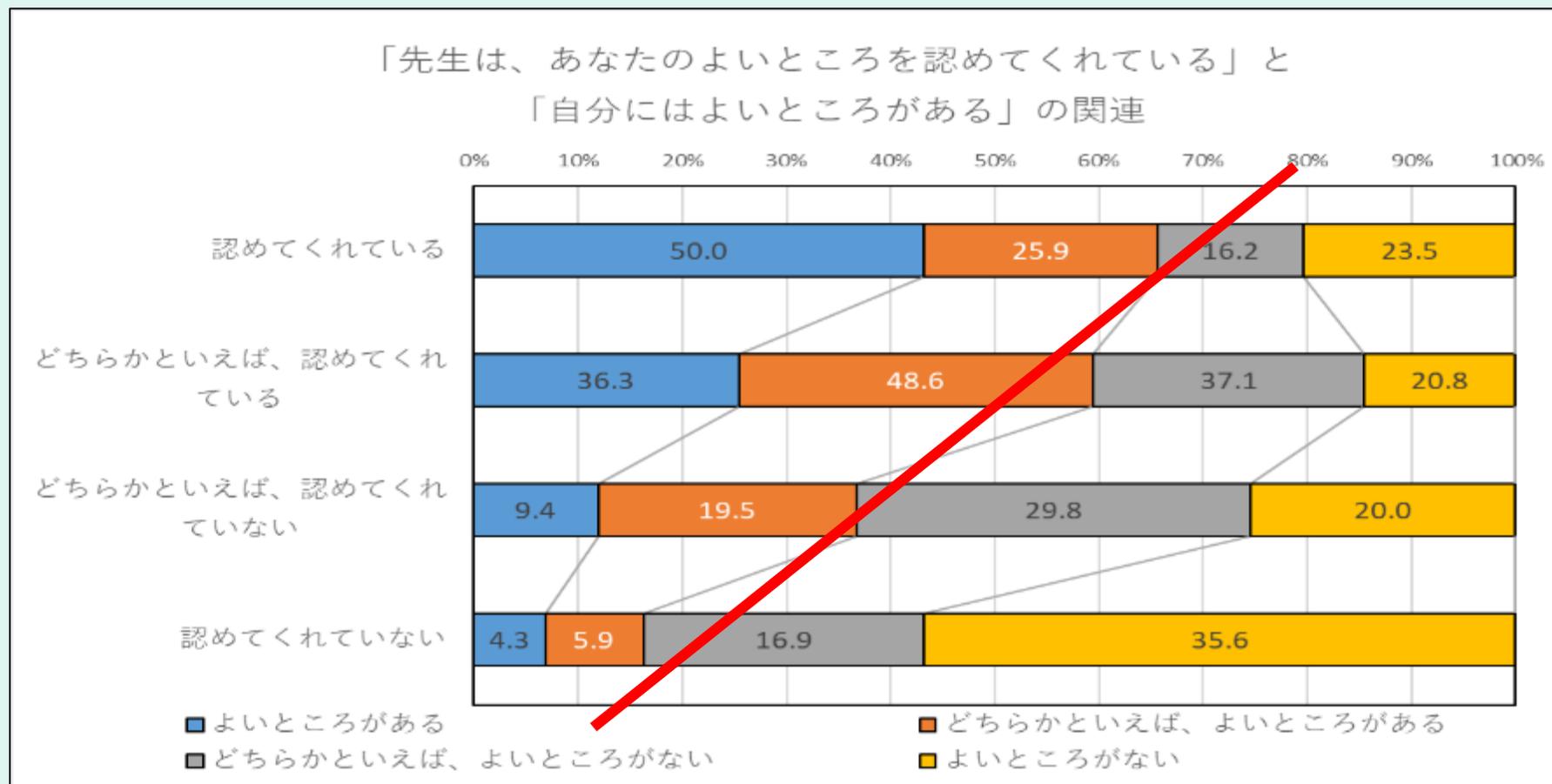
中学校



自己肯定感が高い（自分によいところがあると回答した）児童生徒ほど、各科目における平均正答率が高い。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (3) 児童生徒の自己肯定感に関する状況



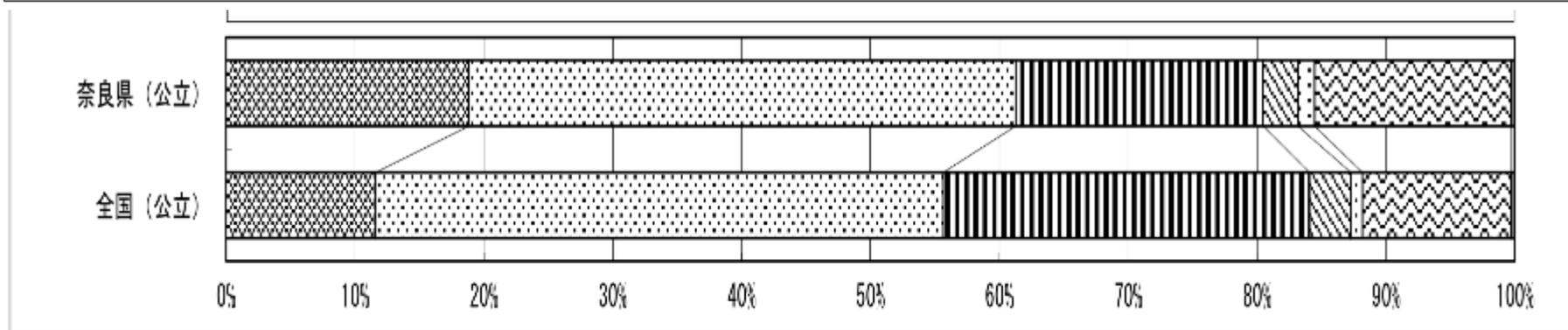
先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童生徒ほど、自己肯定感が高い傾向が見られる。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (4) 中学校における部活動の状況

質問番号	質問事項										
(21)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
奈良県(公立)	18.8	42.4	19.2	2.7	1.3	15.2				0.1	0.2
全国(公立)	11.6	44.0	28.4	3.2	0.9	11.5				0.1	0.2

1. 3時間以上
 2. 2時間以上, 3時間より少ない
 3. 1時間以上, 2時間より少ない
 4. 30分以上, 1時間より少ない
 5. 30分より少ない
 6. 全くしない
 その他
 無回答



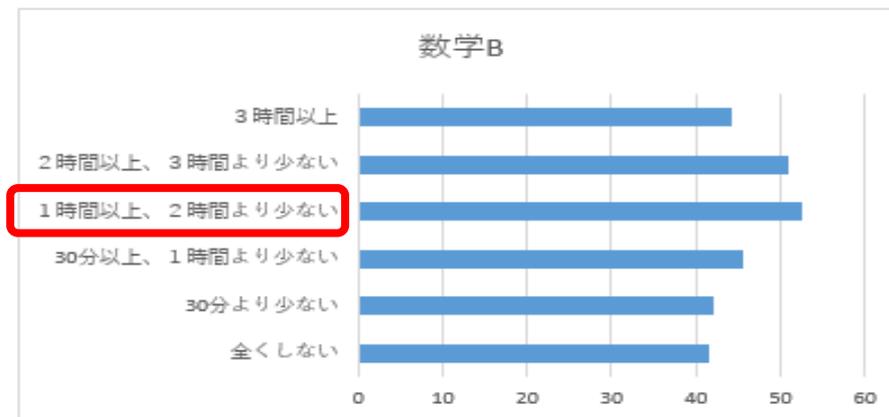
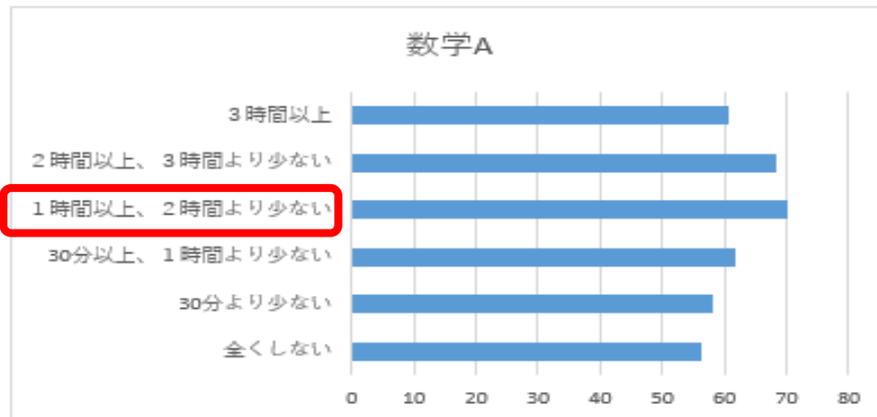
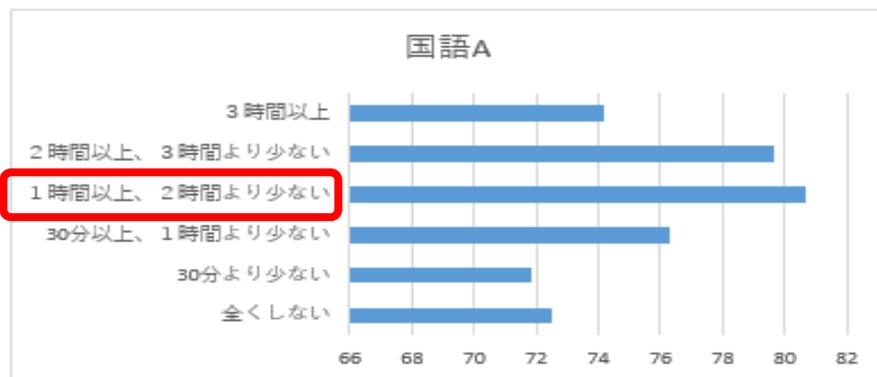
本県の状況は、全国平均に比べて、部活動を3時間以上する生徒の割合と全くしない生徒の割合が高い。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### (4) 中学校における部活動の状況

#### 各科目における選択肢別の平均正答率

奈良県



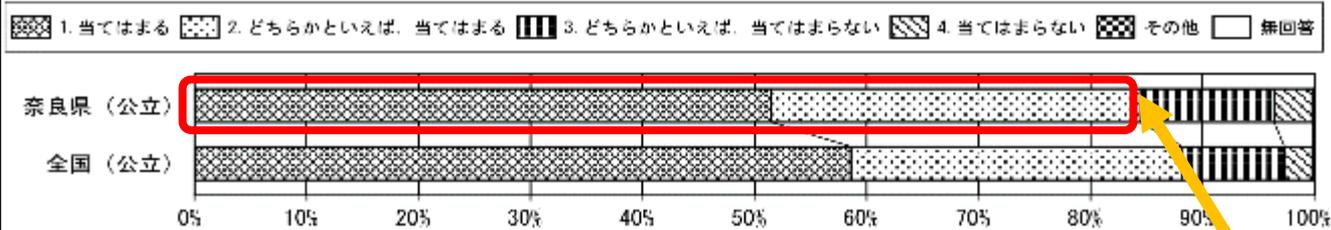
本県では、1日当たり、1時間以上、2時間より少ない時間、部活動をしている生徒の平均正答率が最も高い状況にある。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

○授業で目標が示されていたか、振り返る活動を行っていたか(小学校)

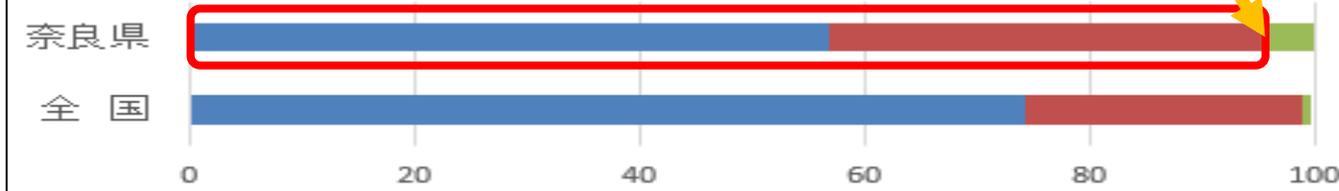
〈授業で目標(めあて・ねらい)が示されていたか〉

児童  
質問紙



奈良県  
84.5%

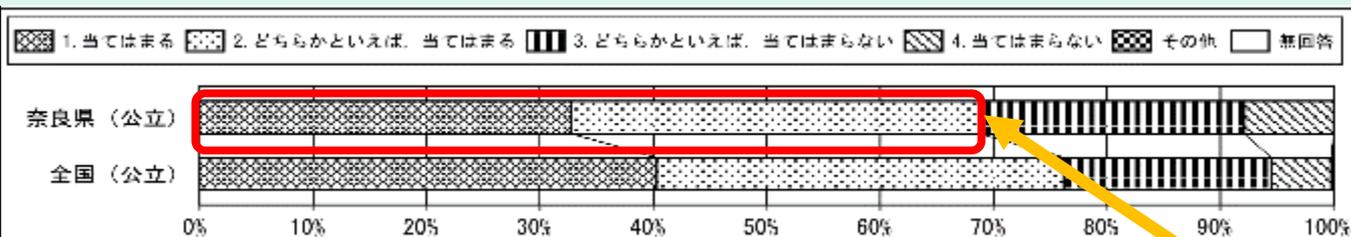
学校  
質問紙



奈良県  
95.4%

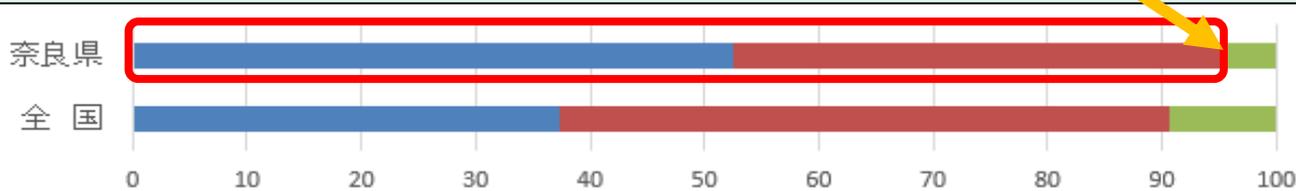
〈授業で振り返る活動をよく行っていたか〉

児童  
質問紙



奈良県  
68.8%

学校  
質問紙



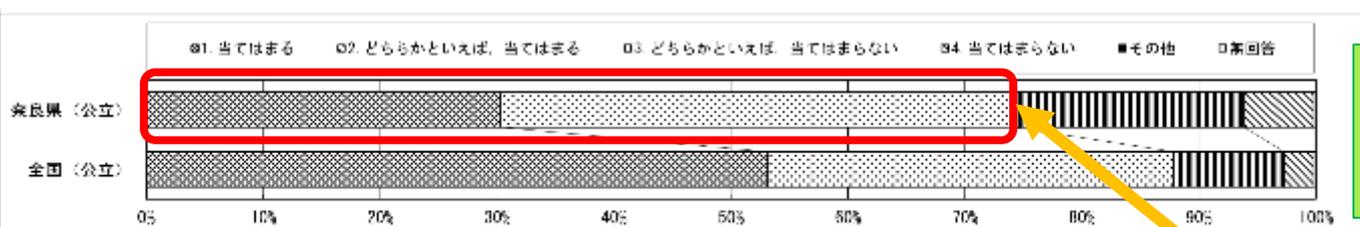
奈良県  
95.4%

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

○授業で目標が示されていたか、振り返る活動を行っていたか(中学校)

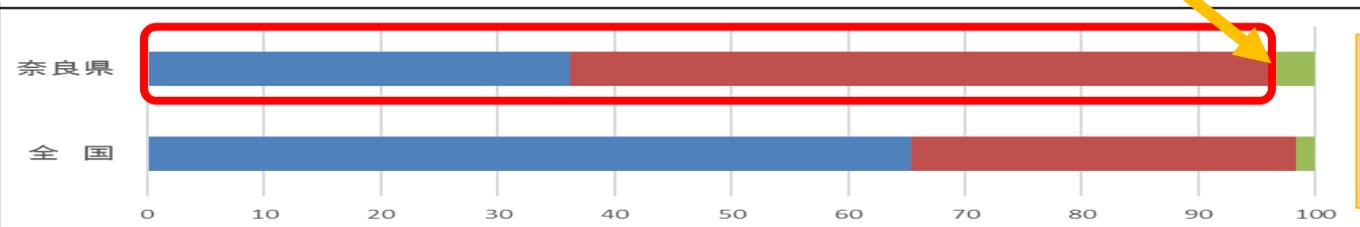
〈授業で目標(めあて・ねらい)が示されていたか〉

生徒  
質問紙



奈良県  
74.2%

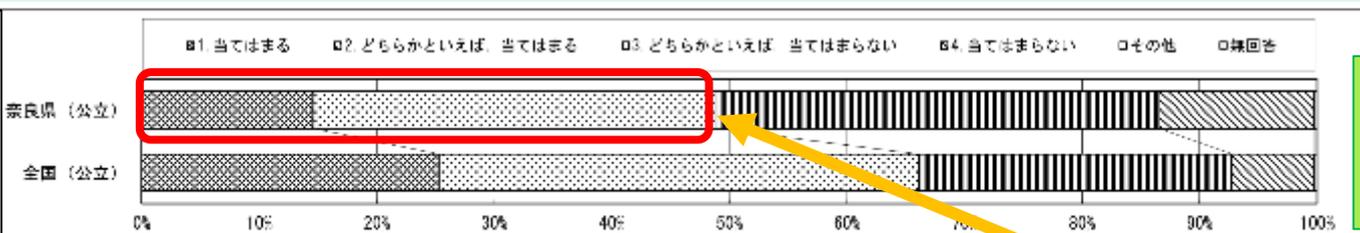
学校  
質問紙



奈良県  
87.8%

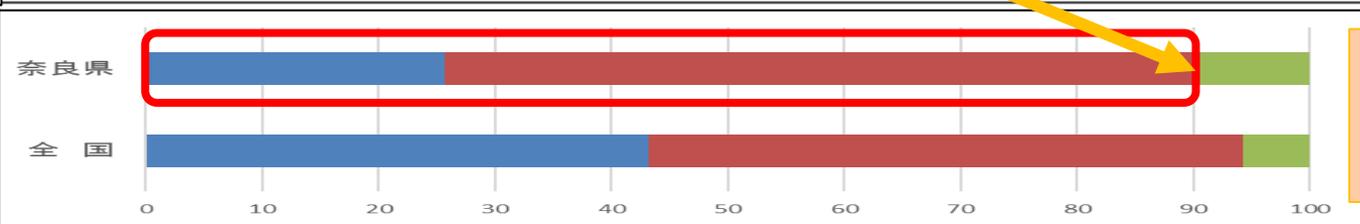
〈授業で振り返る活動をよく行っていたか〉

生徒  
質問紙



奈良県  
48.9%

学校  
質問紙



奈良県  
90.5%

### ○授業で目標が示されていたか、振り返る活動を行っていたか

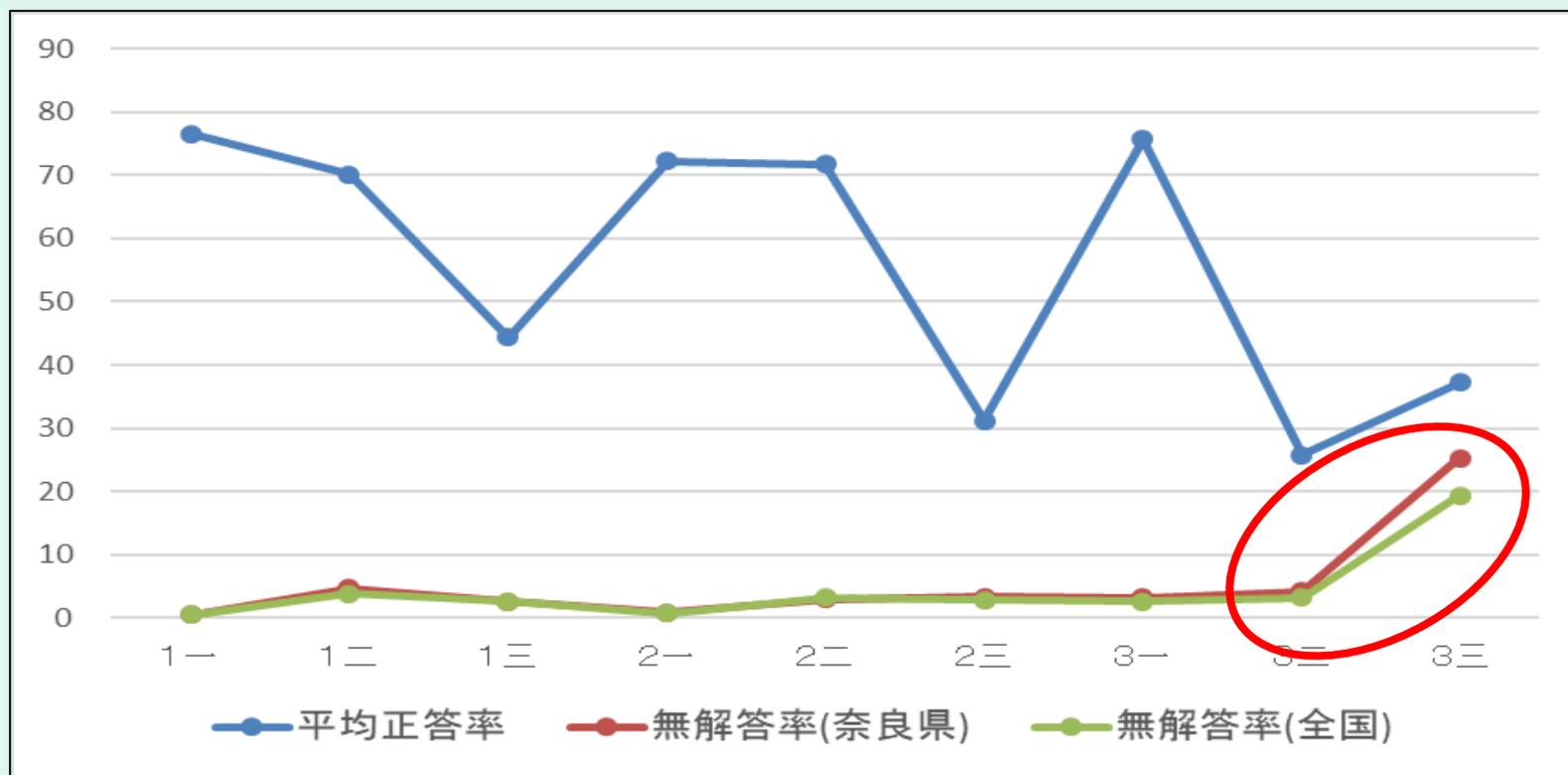
- ① 奈良県の児童生徒の回答について、全国平均と比べて、奈良県の結果が非常に低い。  
→授業改善の一つとして、毎日の授業において目標の確認と振り返りを確実に行うことが重要。
- ② 特に振り返る活動において、教員の意識と児童生徒の意識に大きなずれがある。  
→教員が行う振り返りが、児童生徒に授業の振り返りとして伝わっていない状況がある。授業の目標に照らして、その授業でどこまで目標を達成できたかを具体的に振り返らせるなど、工夫が必要。

上記を踏まえた授業づくりが、全校体制で組織的・計画的に実施できるよう指導をお願いしたい。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### ○無解答率について(小学校)

#### 全国学力・学習状況調査 小学校国語B 平均 正答率と無解答率

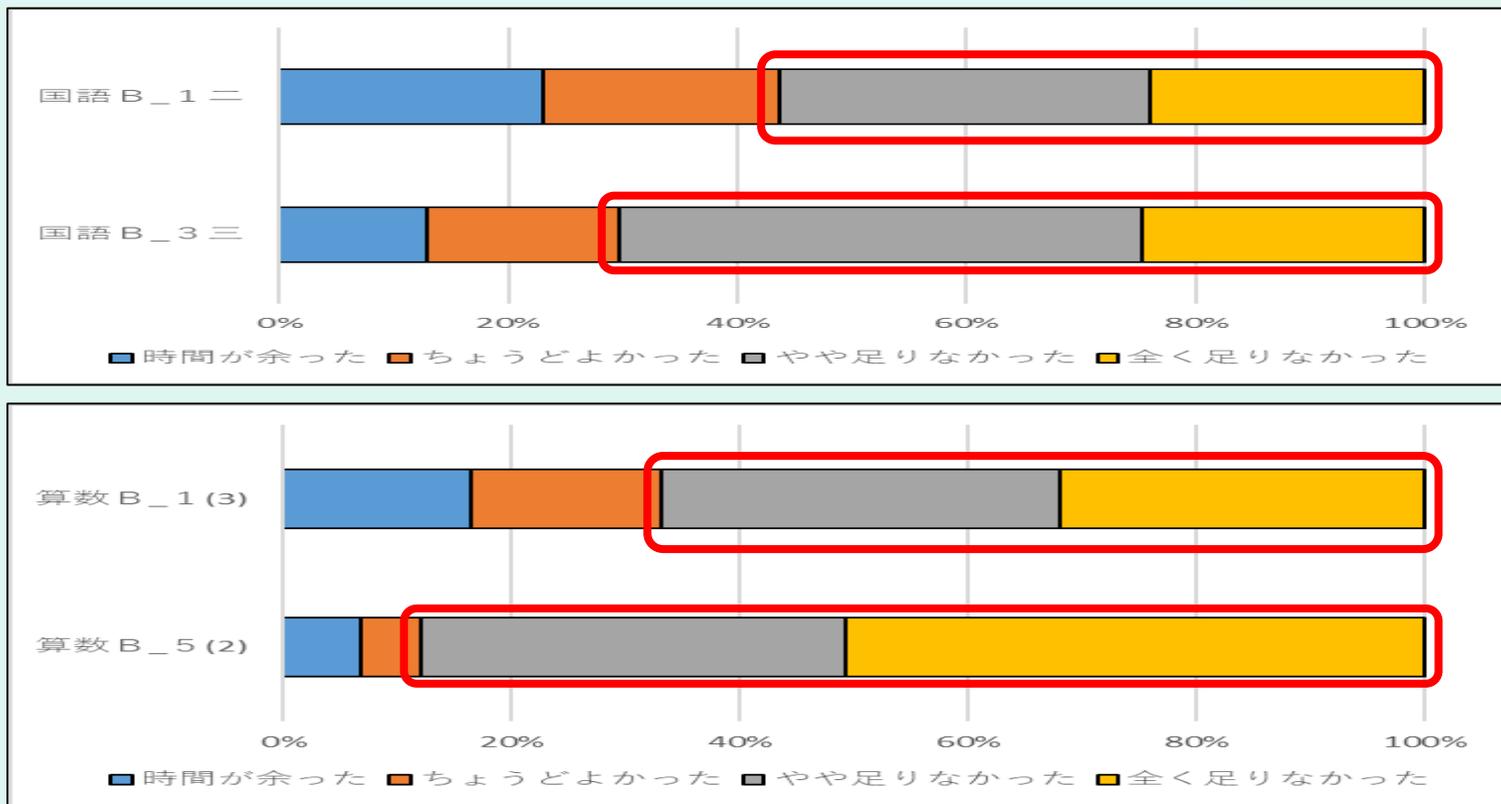


小学生について、後半の設問になるにしたがって、全国平均と比べて無解答率が増える傾向が見られる。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### ○無解答率について(小学校)

#### 〈解答時間は十分であったか〉(小学校)

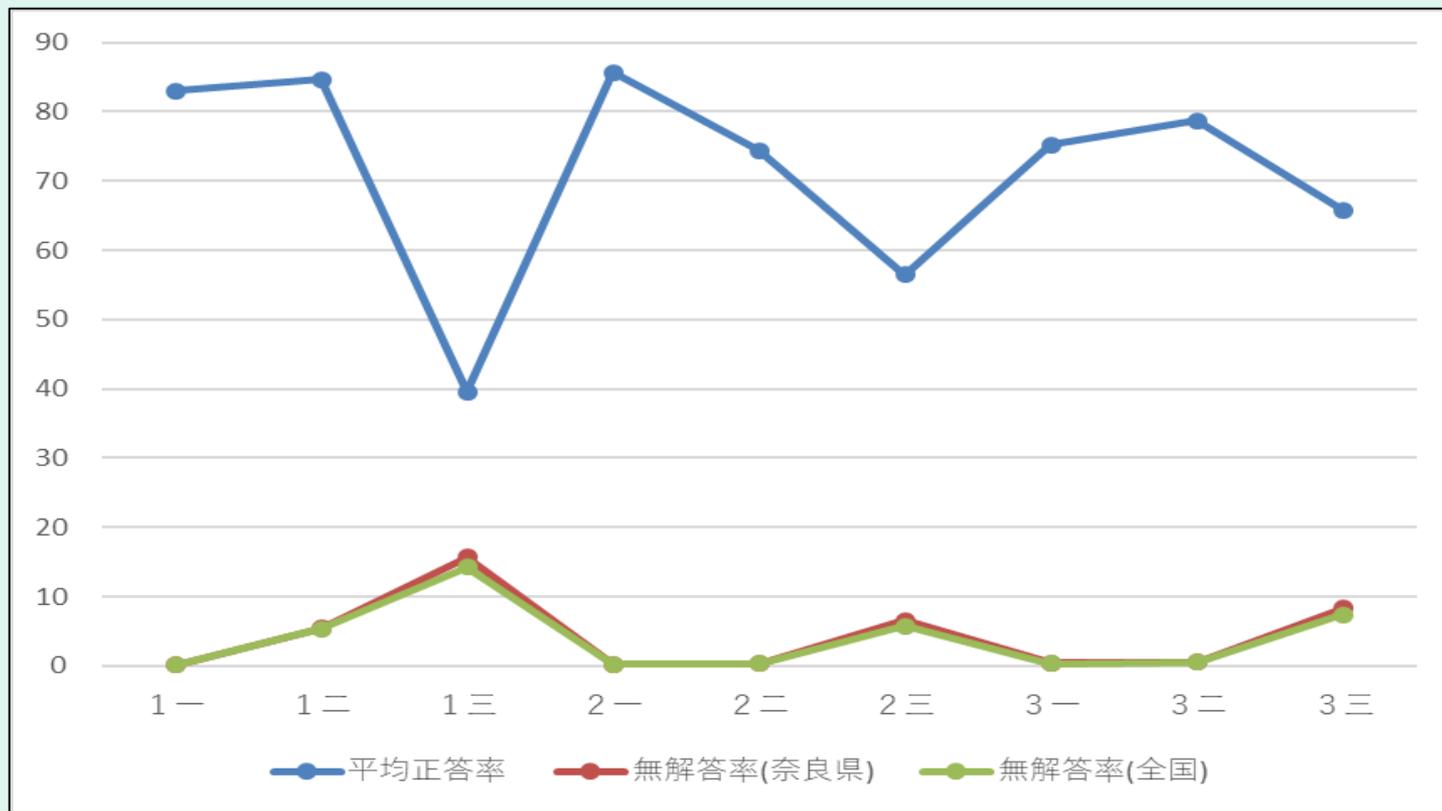


各設問に無解答であった児童のうち、解答時間が不足している児童が半数以上を占めている。調査マニュアルには、「調査の内容」や「調査の時間割」等を前日に説明するとしている。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### ○無解答率について(中学校)

# 全国学力・学習状況調査 中学校国語B 平均正答率と無解答率

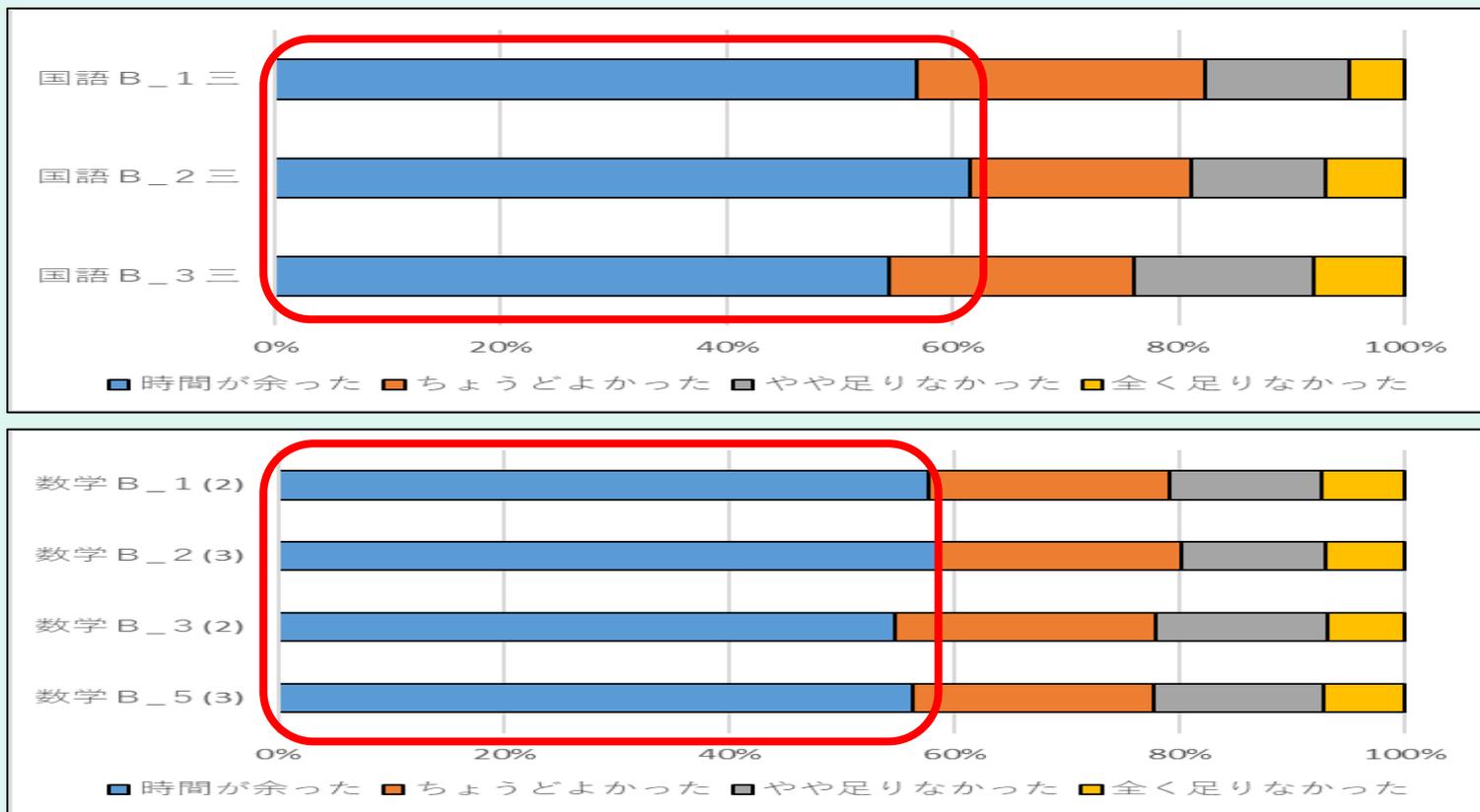


中学生について、無解答率は、全国平均と比べて大きい差は見られない。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### ○無解答率について(中学校)

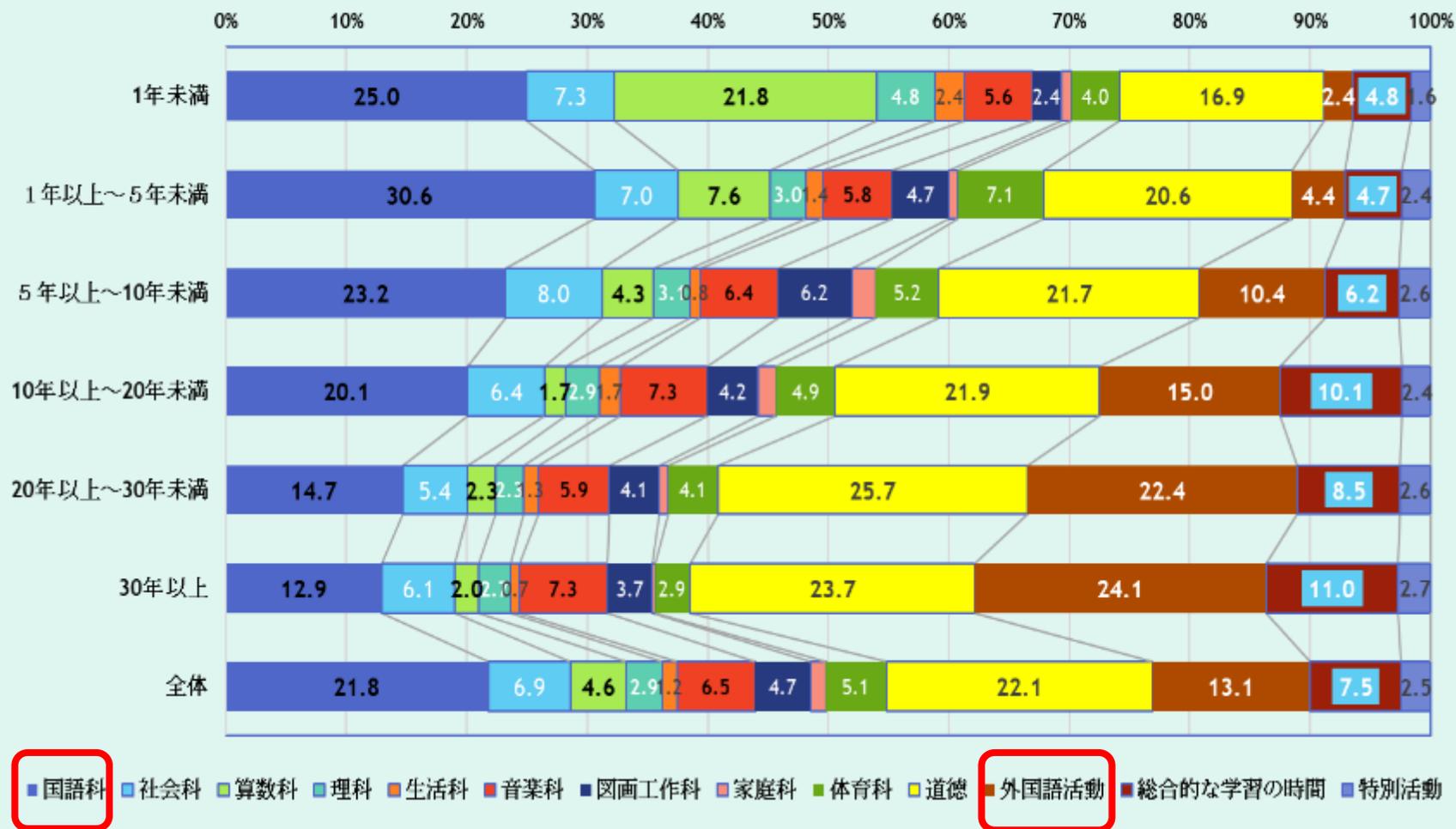
#### 〈解答時間は十分であったか〉(中学校)



各設問に無解答であった生徒のうち、解答時間が余っている生徒がほぼ60%を占めている。生徒が解答を諦めてしまっている状況が見られる。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

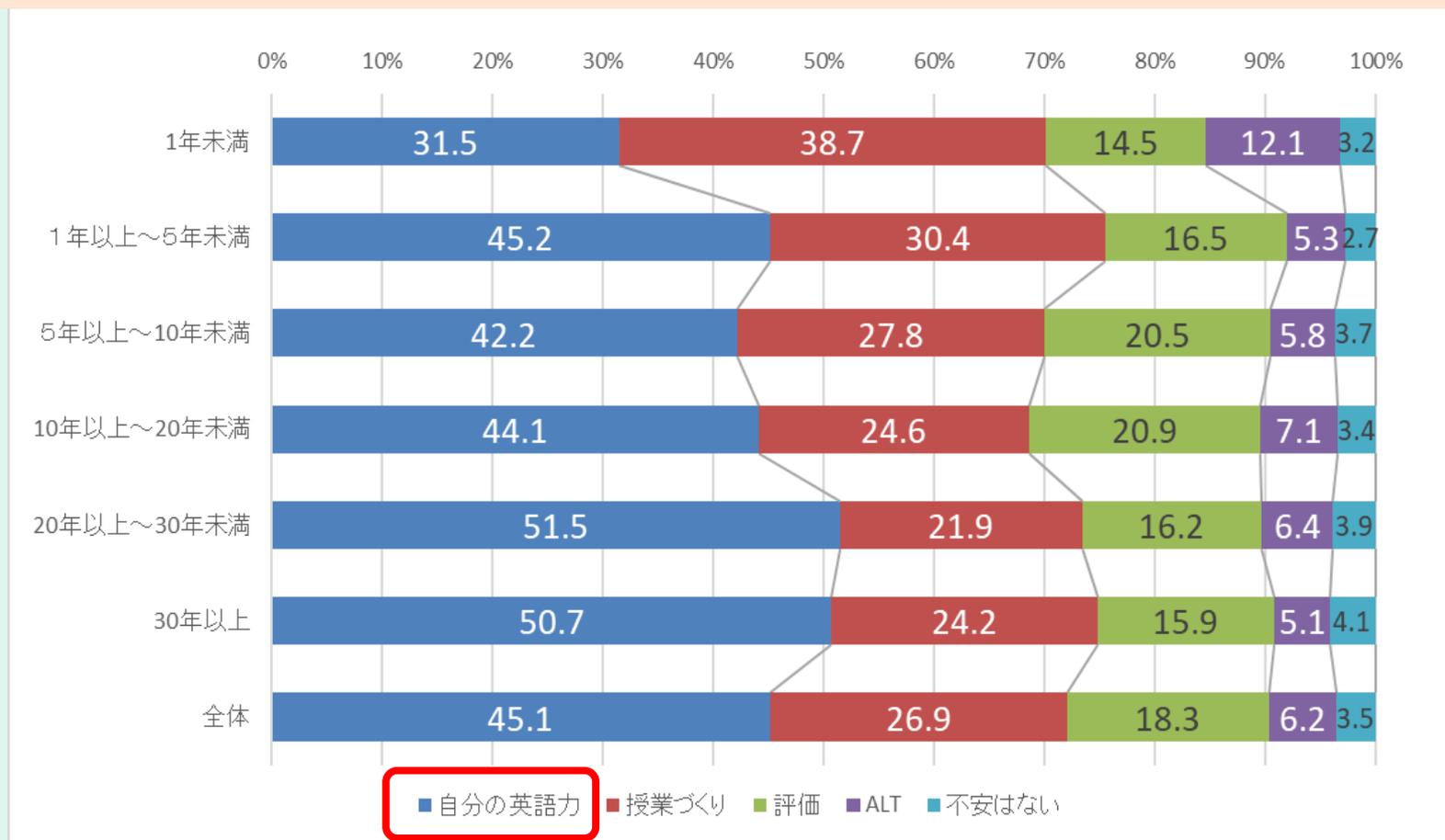
### ○小学校教員にとって、指導することが難しいと感じる教科(経験年数別)



国語科と道徳、外国語活動の指導が難しいと感じていることが分かる。  
経験年数別では、国語科と外国語活動の割合に大きな変化が見られる。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

### ○外国語科・外国語活動の授業について、どのような不安があるか。



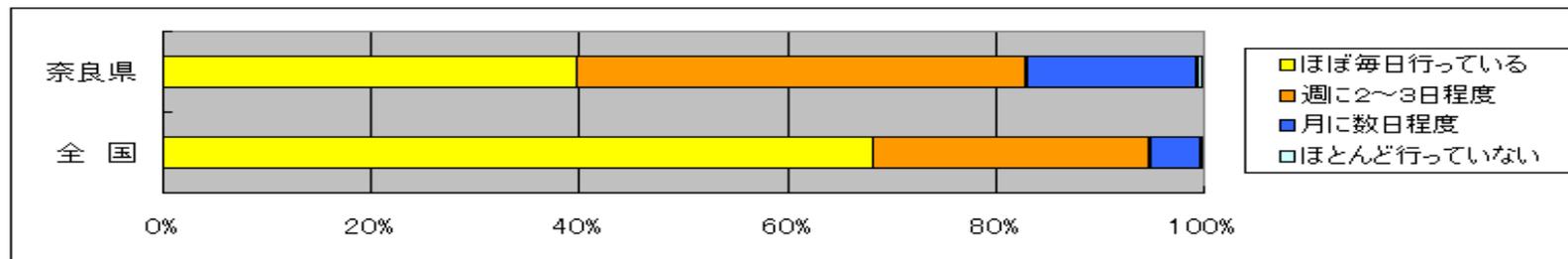
外国語活動の指導について、自分の英語力に不安をもつ先生の割合が高い。先生自身の英語力も大切だが、児童に英語を使わせることをより意識した授業づくりを目指してもらおうよう指導をお願いしたい。

## 2. 奈良県の調査結果とその特徴について

○校長は、校内の授業をどの程度見て回っているか。

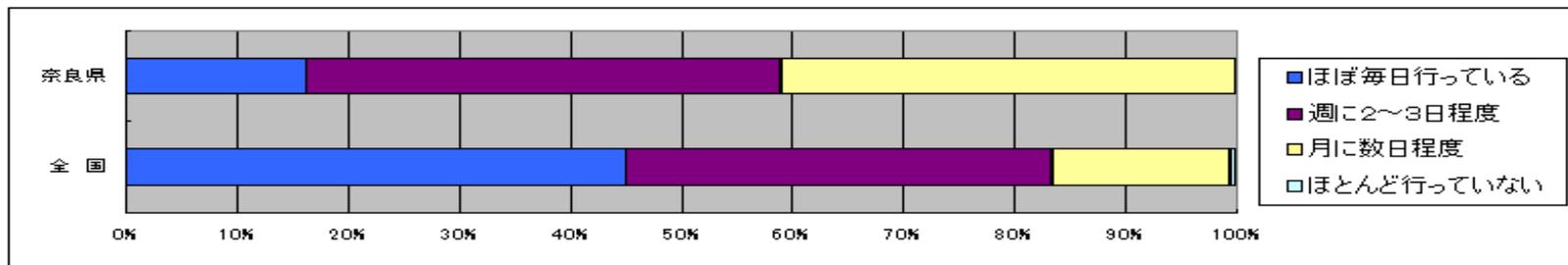
小学校

	ほぼ毎日行っている	週に2～3日程度	月に数日程度	ほとんど行っていない
全国	68.0	26.5	5.1	0.1
奈良県	39.5	43.1	16.4	0.5



中学校

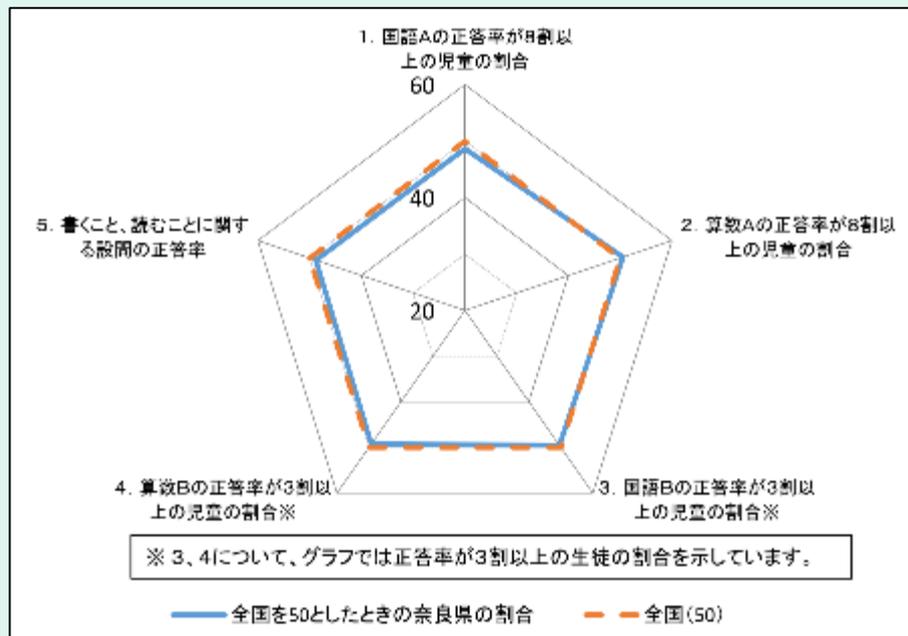
	ほぼ毎日行っている	週に2～3日程度	月に数日程度	ほとんど行っていない
全国	44.9	38.6	16.0	0.5
奈良県	16.2	42.9	41.0	0



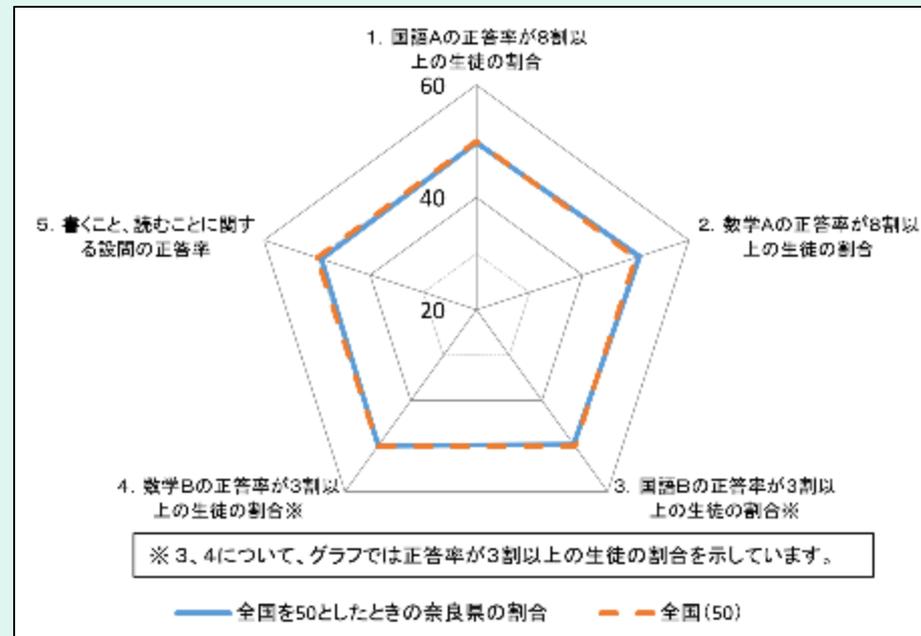
校長が校内の授業参観をする割合が、全国平均に比べてかなり低い状況である。授業中の児童生徒の様子だけでなく、先生方の指導の様子を意識的に見ていただくよう指導をお願いしたい。

### 3. 奈良県教育振興大綱の重要業績評価指標の達成に向けて

国語A、算数・数学Aの正答率が8割以上  
国語B、算数・数学Bの正答率が3割以下  
書くこと、読むことに関する設問の正答率



小学校

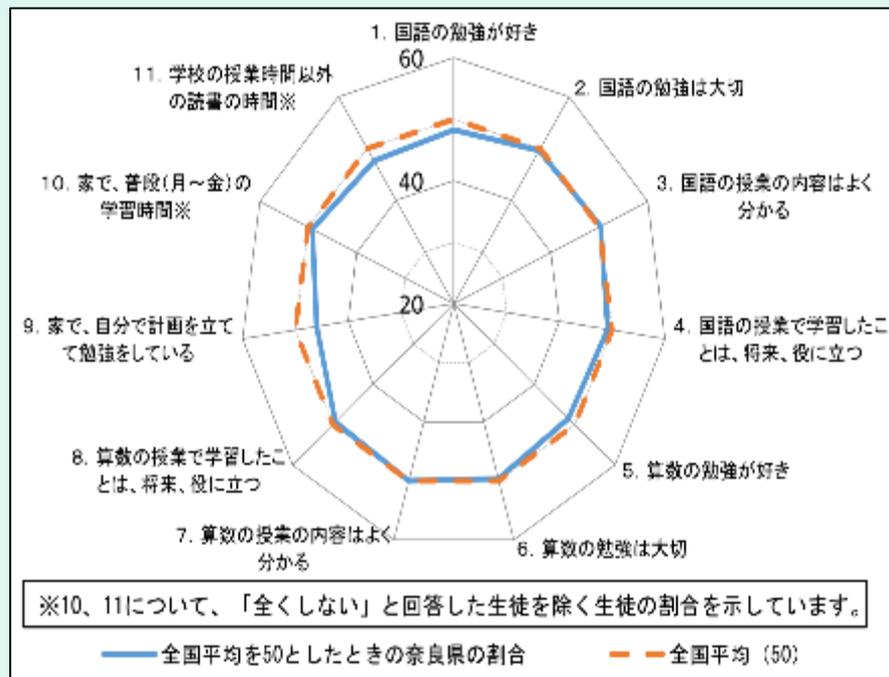


中学校

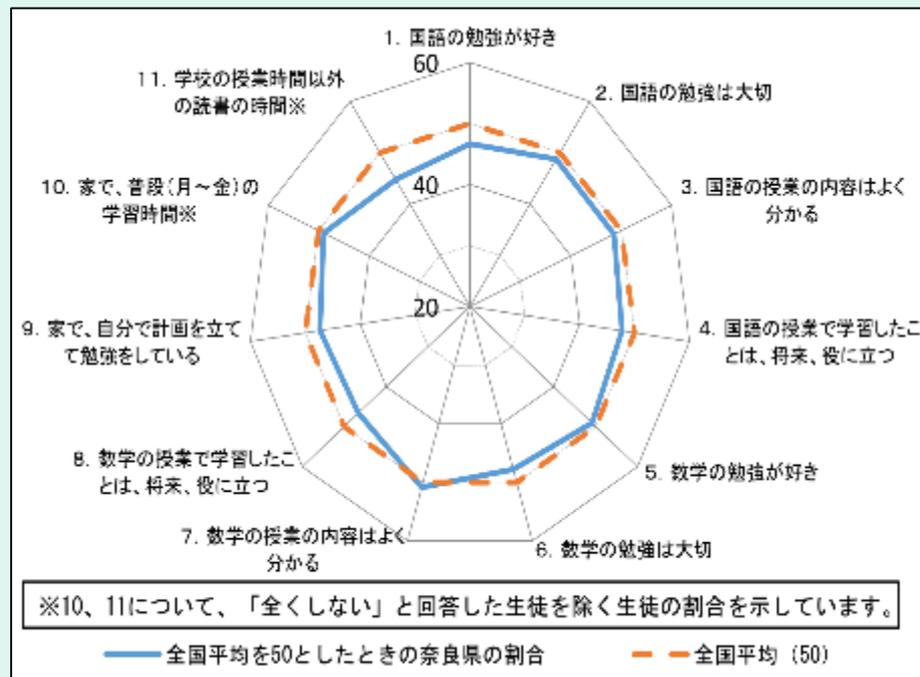
奈良県教育振興大綱に掲載している評価指標について、域内の学校の状況を把握した上で、各学校に資料を提供していただきたい。

### 3. 奈良県教育振興大綱の重要業績評価指標の達成に向けて

## 1. 国語の勉強が好き ～ 11. 読書をする時間



小学校

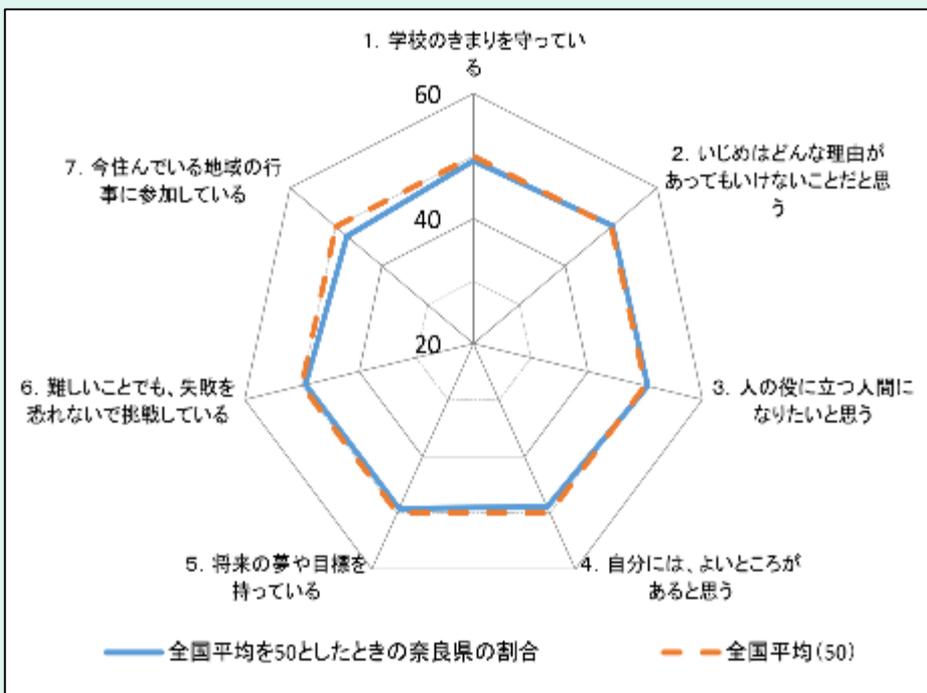


中学校

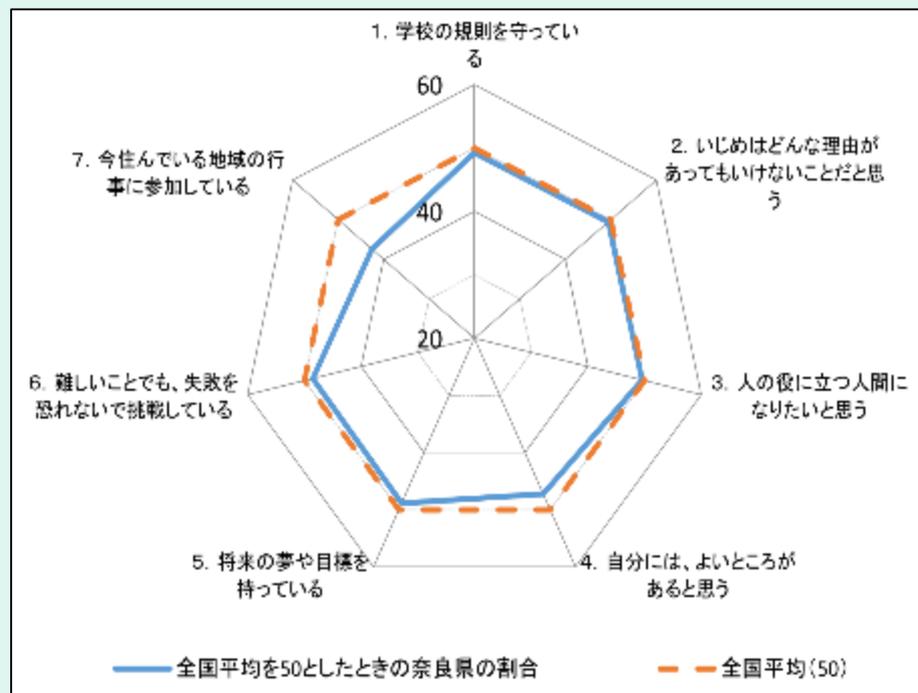
奈良県教育振興大綱に掲載している評価指標について、域内の学校の状況を把握した上で、各学校に資料を提供していただきたい。

### 3. 奈良県教育振興大綱の重要業績評価指標の達成に向けて

## 1. 学校のきまり(規則)を守る ～ 7. 地域の行事に参加している



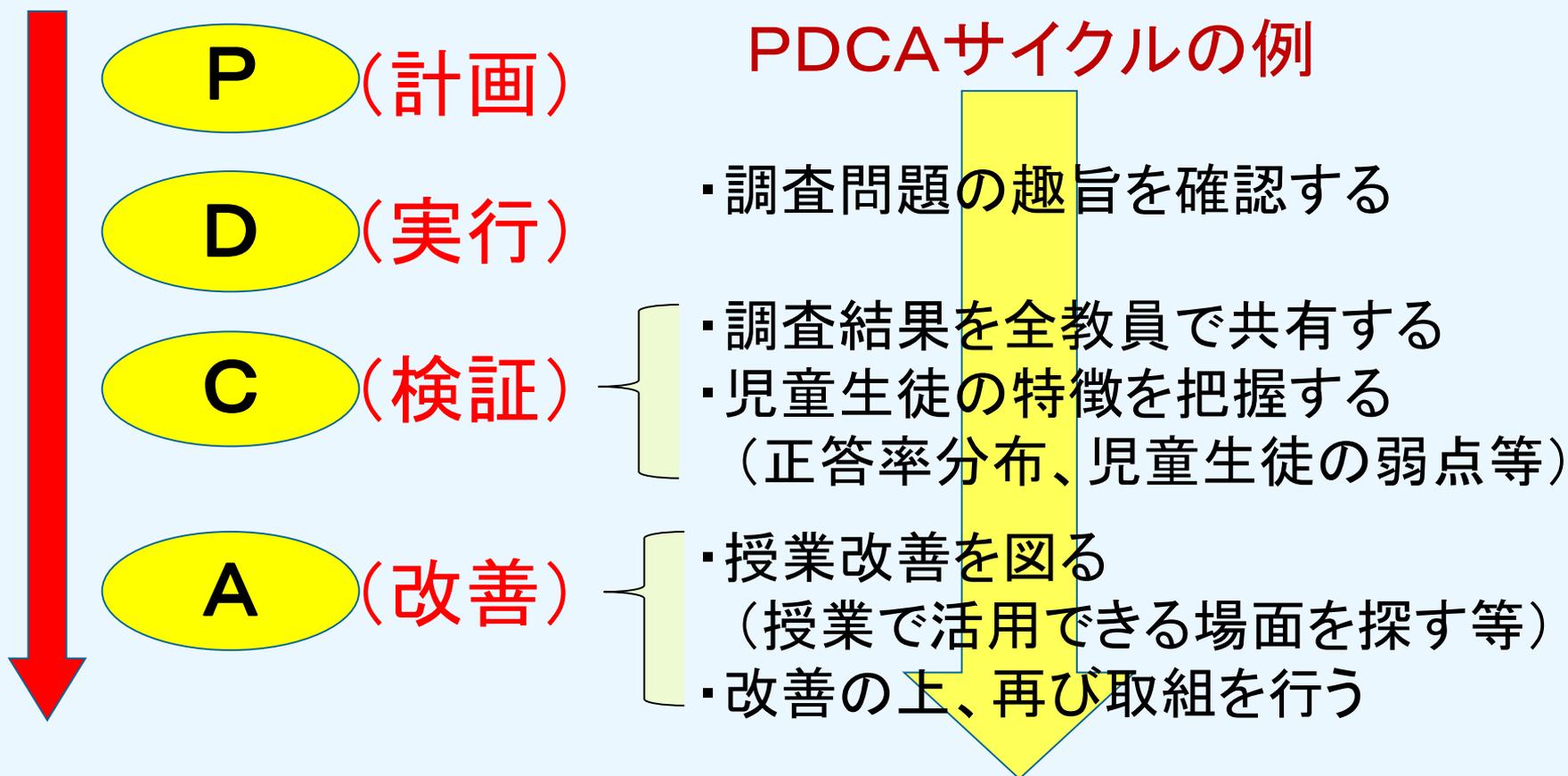
小学校



中学校

奈良県教育振興大綱に掲載している評価指標について、域内の学校の状況を把握した上で、各学校に資料を提供していただきたい。

## 各学校におけるPDCAサイクルの短期間の実施



例えば、2学期の最後にアンケート調査を実施して効果を検証するなど、なるべく短期間にPDCAサイクルを回して次のサイクルにつなげる。

# 報告書の活用

## 出題の趣旨

国語A① 学級文書のタイトルを決める

出題の趣旨

出題の趣旨

■学習指導要領における領域・内容  
 (第3学年及び第4学年) A 話すこと・聞くこと  
 オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連  
 (第3学年及び第4学年) A 話すこと・聞くこと  
 イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

解答類型と反応率

反応タイプ	解答類型	反応率(%)	割合	
川	1	1. 納得しているもの	7.2	62
	2	2. 納得していないもの	6.3	
	3	3. 納得しているもの	69.9	
	4	4. 納得していないもの	17.8	
	5	5. 上記以外の回答	0.0	
	6	6. 無回答	0.1	

出題の趣旨

互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができるかどうかをみる。

## 領域・内容 言語活動との関連

■学習指導要領における領域・内容  
 (第3学年及び第4学年) A 話すこと・聞くこと  
 オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連  
 (第3学年及び第4学年) A 話すこと・聞くこと  
 イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

研修の機会等に、各学校に送付されている報告書を活用し、先生方の共通理解と改善への方策に生かすよう指導をお願いしたい。

(平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語)

## 教育委員会や先生方にお願いしたいこと

(1) 全国学力・学習状況調査を通して、**今の子どもたちにどんな学力が求められているか**の把握に努めること。

今の子どもに求められる学力は、我々が子どもの時代に求められてきた学力から変化している。調査問題が特殊な問題だと捉えることなく、**調査問題を通して子どもにどのような力が求められているか**ということについて、**学校全体での把握**に努めること。

例えば…

学校の職員研修で調査問題を解き、求められる学力と今後の授業の在り方について研究を深めること。

(2) 学力調査の内容や結果を参考に、**普段の授業の指導改善に努める**こと。

調査問題や調査結果の分析を通して、普段の**授業が単に知識や技能の伝達だけに留まらず、子どもたちの実生活の様々な場面に活用できる力を育み、子どもの学習意欲につながるような場となるように**、全ての教科等において改善に努めること。

例えば…

質問紙調査の結果から、各学校で何が足りないのか分析し、指導状況の改善に努めること。

(3) 学力調査においては、**子どもが力を十分に発揮し、子どもの正確な学力が測れるように指導**すること。

- 事前に子どもたちや保護者に調査の趣旨を説明し、**真剣に取り組むよう指導**すること。
- 学力調査において、子どもが力を十分に発揮できるよう、教員は**子どもの学習状況の把握**に努めること。

「全国学力・学習状況調査 調査マニュアル」には…

□ 児童(生徒)が 解答(回答)欄の場所を間違えずに記入しているかを確認し、適宜、指示してください。

□ 解答を諦めているような児童(生徒)には、できるところから解答を試みるよう、適宜、指導してください。

★ 児童(生徒)質問紙の調査中に、児童(生徒)から質問があった場合は、適宜、説明してください。

- 実生活では答えを導き出せる子どもであっても、テストで問われると、何を問われているのか理解できない子どもも存在すると考えられる。単に得点の上昇を目指すのではなく、**子どもの正確な学力を測れるようにする**という視点から、**教育課程に位置付けて、普段の授業で取り上げる単元で、関連する調査問題を使って考えさせる**ことなどにより、テストで問われている内容を理解できる子どもが増えるのではないか。

# 各市町村における公表状況について

〈全国学力・学習状況調査の調査結果〉

県内12市のうち 8市で公表

県内28町村のうち 13町村で公表

〈奈良県学力・学習状況調査の調査結果〉

県内12市のうち 4市で公表

県内28町村のうち 7町村で公表

○ 公表の方法

- ・ 市町村教育委員会のWebページ
- ・ 市町村の広報誌
- ・ 各学校から発行する学校新聞